2月

わたしは　たねを　にぎっていた

山村暮鳥

わたしは　たねを　にぎっていた
なんのたねだか　しらない
いつから　にぎっているのか　それも　しらない
とにかく　どこにか　まこうと
そして　あおぞらをながめていた
あおぞらを　ながめているまに
たねは　ちいさなめをだした

２０２３年夏の甲子園
優勝を果たしたのは、慶應義塾大学高校野球部でした。掲げていたのは、従来の管理型とは異なる「エンジョイ・ベースボール」チームを率いた森林貴彦監督は小学校教諭でもあります。森林監督は今の子どもたちについて、こう語っています。
「短い動画などわかりやすい情報にすぐに反応する一方で、情報を集める力や感度、検索して取捨選択する力はとても高い。しかしその反面、指示に従うことやルールに集中するあまり自分の考えやアイデアを表現する場が少なくなっているのではないか」と。
「野球が好きで続けているなら、自ら考え、追求できる人になってほしい」
その思いから監督は子どもたちの「考える力」を大切にしてきました。
今のこどもたちは、AI が生まれた時から身近にあります。AI に聞けばすぐに答えが返ってくる時代です。けれど、AI が教えてくれるのは「答え」ではなく「答えらしきもの」それを本当の答えにしていくのは、自分自身の思いや考えです。
だからこそ、森林監督は小学生から高校生の大切な時期に AI に頼りすぎず自分で考え自問自答する経験をしてほしいと語ります。社会で大切なことは、共働、共創。
それは AI から教わるのではなく人とのかかわりの中で育っていくものだと。暦の上では立春を迎え春の訪れを感じ始める２月。進級を意識し始める時期でもあります。こどもたちの表情や言葉、友達とのかかわりにも成長がみられる時期です。心の種をまく乳幼児期。
異年齢のともだちと共に生活する園での毎日は人生において大きな学びの時間です。たくさんの遊びやかかわりの中から自分の「好き」という種をみつけていく冒険の日々。私たちはその一日一日を大切にしながら子どもたちの育ちに寄り添えるよう力を心をつくしていきたいと思います。

ソフィア東生駒こども園　園長　中畑　直実